

伊勢・三河湾貧酸素情報 (R3-1号)

令和3年6月4日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

はじめに

今年度も6月から10月まで、伊勢・三河湾の貧酸素水塊の発達状況について、現況と予測の情報を提供します。

データは、三重県水産研究所が「あさま」で実施する浅海定線調査、愛知県水産試験場が「海幸丸」、「へいわ」で実施する環境調査等の結果を利用し、月2、3回程度情報提供する予定です。

情報は速報値であるため、後日、補正等で修正される場合もありますので、ご承知おきください。

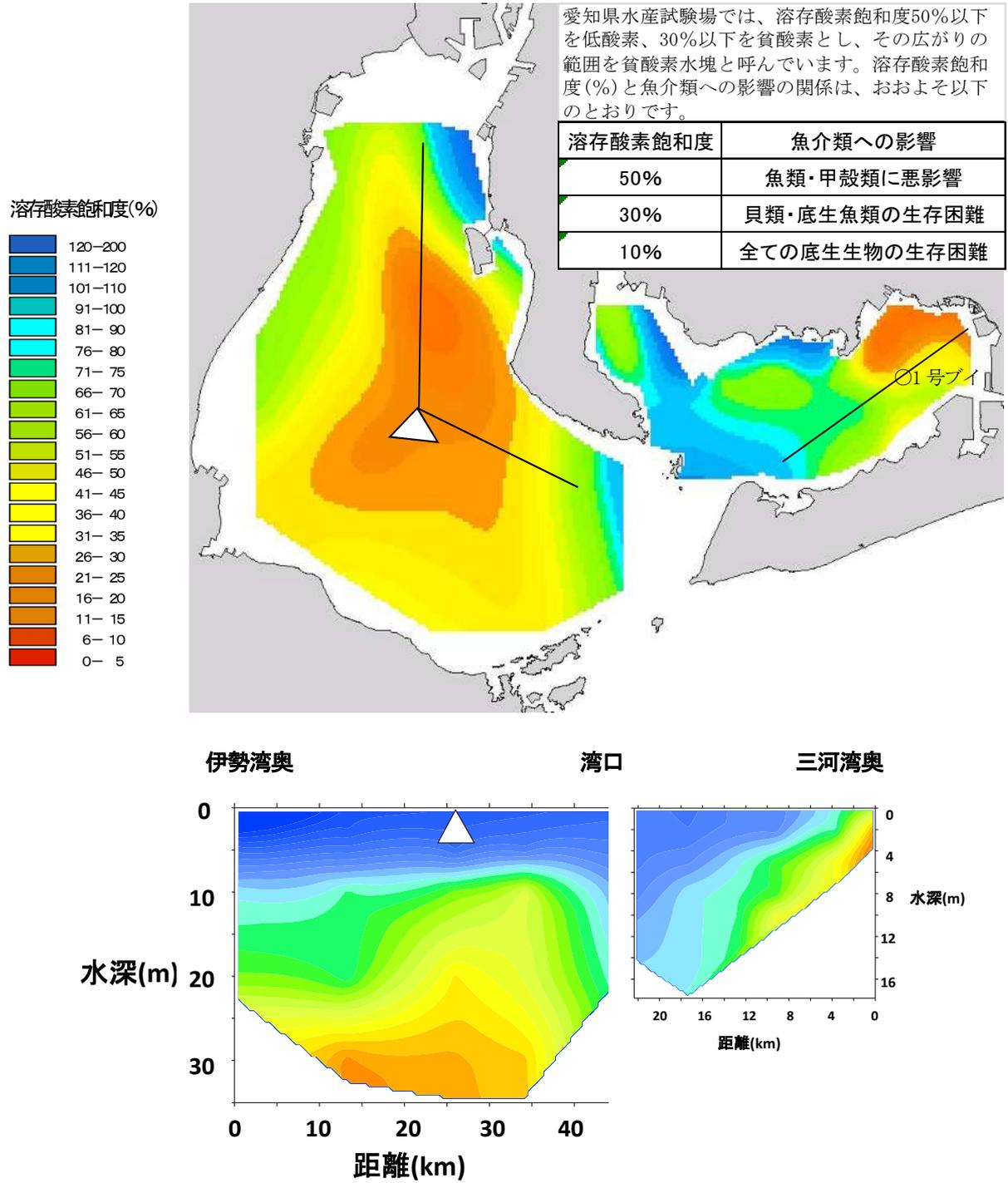


図1 伊勢湾（6月1、2日）・三河湾（6月2、3日）底層の溶存酸素飽和度の分布（上図）及び上図直線部分の鉛直分布（下図）（三重県「あさま」、愛知県「へいわ」調査）

伊勢湾

6月1、2日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾の湾中央部で貧酸素水塊が確認されました。今後は表層の水温上昇と降雨による塩分低下にともなう成層の発達により、下層で貧酸素水塊が拡大すると思われます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	19.6~22.4	19.9~30.8
底層	16.3~18.6	30.5~34.1

三河湾

6月2、3日の調査結果を図1に示しました。渥美湾の湾北部で貧酸素水塊が確認されました。また三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ(蒲郡沖)のデータを見ると、5月下旬以降、海底上約3mの範囲で貧酸素水塊が確認されていましたが、6月3日には一時的に解消されています。同日に1号ブイにおいて約10m/sの南東風が確認されたことから、海水が混合され、一時的に貧酸素水塊が解消されたと考えられます。(図2)。

今後は表層の水温上昇と降雨による塩分低下にともなう成層の発達により、下層で貧酸素水塊が拡大すると思われます。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	19.6~21.9	23.9~29.7
底層	16.2~19.1	30.5~33.8

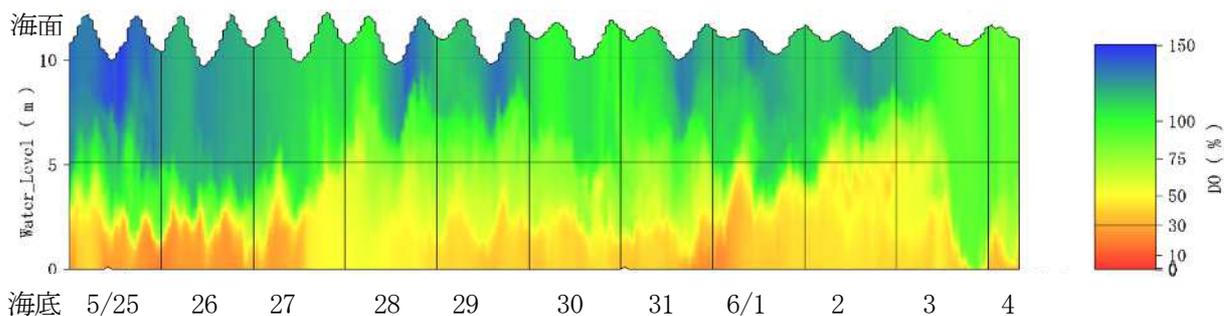


図2 溶存酸素飽和度 (DO) の経時変化 (三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ)

参考

前年同期の両湾底層の溶存酸素状況

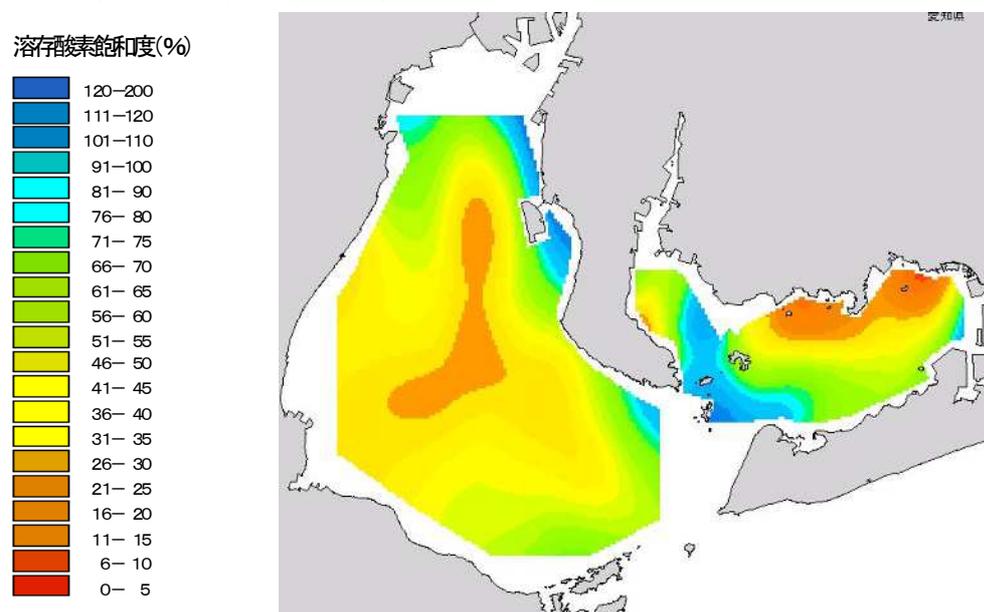


図3 令和2年6月1、2日(伊勢湾)、6月2、3日(三河湾)